



横浜市立一本松小学校

学校だより

9月号

令和3年9月1日
横浜市立一本松小学校
校長 高桑 透

「自分のできることをしっかりと」

校長 高桑 透

長い夏休みが終わり、学校が再開されました。緊急事態宣言が延長され、分散登校や短縮授業など、通常時の学校生活ができない状況ではありますが、まずは安心して学校生活を送ることができるようになっています。休校期間中の健康観察など、様々なご協力ありがとうございました。今後の教育活動についても、変更および中止を余儀なくされると思われませんが、引き続きご理解ご協力をお願いいたします。

さて、私の夏休み前半は、自粛生活の中ほぼ毎日オリンピックのテレビ観戦をしていました。地元横浜で行われたソフトボール・野球はともに金メダル。また、東京オリンピックより始まった競技である、スケートボードやスポーツクライミング、空手、サーフィンなどでも日本人選手が活躍しました。開催国という大きな期待を受けながらも、素晴らしいパフォーマンスを見せてくれた選手たちに心から拍手を送りたいと思います。

また、先週から始まったパラリンピックでも、同じように日本人選手が大活躍しています。いろいろな競技を観ている中で、特に車椅子ラグビーが大好きになりました。車椅子同士が激しくぶつかるタックルの迫力、1点を争う攻防、決められた攻撃時間の中でいかにトライに結びつけるかなど、見どころもたくさんあります。その中で、特に感じたのはチームワークの大切さでした。

選手が使う車椅子には、小回りの利く攻撃型のもので、相手をブロックするためにバンパーがついている守備型の2種類があります。選手はこの2つから自分の使う車椅子を選択します。おおまかにいえば、攻撃型の車椅子を使用している選手がボールを巧みに運んでいきトライをして得点をします。守備型の車椅子を使用している選手は、相手をブロックして動きを封じることで、味方のトライに結びつけます。それぞれの役割がある程度は決まっています。

試合観戦していると、どうしてもボールを持っている選手に目が行きますが、解説者の話からそのことを知ったあとは、ボールを持っている選手を観るのではなく、ボールを持っていない他の3人がどのような動きをしているかが気になるようになりました。すると、ボールをもっていない選手が、必死に相手の動きをブロックしたり、コースを先読みしてパスをもらえるところに動いたり、ボールを持っている選手以上に頭を使って動いている様子がよくわかりました。この3人の動きがきれいに決まると、ボールを持っている選手が、ブロックによって開けられたコースをスッと通ってトライすることができます。正にチームワークで奪ったトライです。いろいろな団体スポーツがありますが、車椅子ラグビーほど、チームワークが勝利に結びつくスポーツはないと感じ、大好きになりました。

学校教育でも、それぞれが**自分のできることにしっかりと取り組む**ことはとても大切です。現状では、まずは安心して学校生活を送ることができるようになることを第一に考えます。そのために、何をしなければいけないのか、子どもたちと一緒に考え、取り組んでいきます。